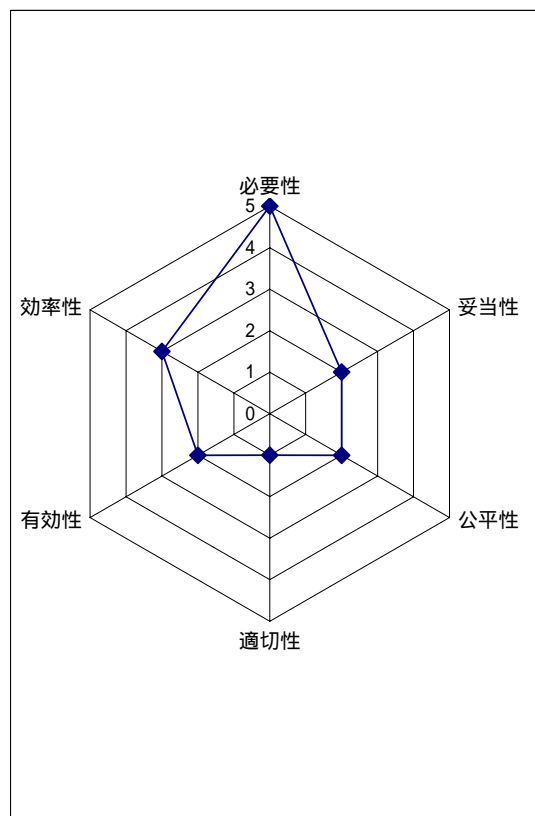


事務事業名	地域子ども教室推進事業	担当部局	教育委員会
基本目標	明日を拓く豊かな市民文化と人づくり(教育・文化)	担当課名	生涯学習課
施策体系	ともに学び、ふれあう家庭・地域教育	担当係名	生涯学習係
施策	結城のこどもは、学校・地域・家庭が一体となって育てる		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	少子化やテレビゲームの普及などにより、今の子どもたちは学年の違う子どもや地域の人と接する機会が少なくなっています。この事業は、子どもたちが放課後などに学年の違う子どもたちと自由に遊んだり、地域の人々と交流できる機会を設け、人づきあいについて学んだり、自分の考えをしっかりと伝える力を育てることを目的としている。		
事業の期間(開始/終了)	平成16年 4月/ 年 月		
根拠法令、条例、規則など			
事業が対象としている人(モノ)	参加児童数(延べ人数)		
具体的な活動内容	地域の特性や文化を生かした体験活動や、地域の大人たちの特技を生かした活動、スポーツ活動等の様々な体験活動を行う。		
事業の成果	異年齢間の児童や地域の大人達との交流、体験活動とおして、コミュニケーション能力を高め、思いやり、協調性、我慢などを学んでいく。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	5 ますます必要性は高くなっている 青少年事件の低年齢化や罪の意識の希薄化はニュース報道により耳にするところであるが、コミュニケーションによる問題解決能力が弱ってきていることも原因のひとつと考えられる。子ども達の居場所(体験の場)を設け、大人になる過程に多くの地域の大人たちや異年齢のこどもたちがかわかっていくことは、子どもの成長過程に必要なことである。
妥当性	2 民間等でも実施できる(実施している)事業である 当事業は、3カ年の委託事業であり、当課と地域の組織及び個人の協力をいただき、実施している。来年度以降については、地域組織及び個人のボランティアを中心に実施することを決定している。なお、予算措置は市単独で行う。
公平性	2 広い範囲を対象としているが、活用は一部にとどまるなど、若干偏りがある 開催拠点施設の関係並びに指導員の配置人数から、登録者数には限度がある。拠点施設や活動指導員を増やすことで、広く多くの子ども達に体験・交流の場を提供できるように努力して行く。
適切性	1 やり方(手段)を変更すべきである 当課において本事業をスタートさせたが、3年目を迎える本年度、事業運営を地域主体に移行する準備を行い、来年度からは地域主体で事業を実施する予定である。
有効性	2 やや目標を下回っており、改善が必要である。 子どもたちの居場所づくりを地域の大人がかかわり、体験の場の提供している点は、目的を果たしているが、活動拠点を増やすことが課題ある。
効率性	3 どちらとも言えない 事業の活性化と定着において、経費がかかってしまったが、本事業が3年目を迎え定着化しつつあるなかで、事業費を抑えて行きたい。しかし、子どもたちの安全管理には重点を置き、十分な人員配置を考えている。

総合評価	平成16年度に事業を開始し、平成17年度は、2年目で事業を成熟させ、3年目の本年度は、国の委託事業が修了する年でもあることから、事業運営を地域主体にしていくこと、子育てボランティアや特技のある地域の大人・学生等の人材発掘も課題である。
------	---

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	将来をになう子ども達の教育は、学校教育・社会教育どちらも等しく重要な事である。特に昨今の子どもが関係する事件の発生は、子どもの成長過程における、家庭や社会の教育環境が起因しているのではないと思われる。今後とも、将来の子ども達のため、指導者の確保を行いながら、この事業を定着させたい。			
決定権者判断	決定内容	維持継続			
	説明	各小中学校において総合的な学習として種々の施策を行っているが、指導者の育成も行い多くの指導者によって事業を継続する。			